

講義名	研究演習 (人)			
講義コード	25209	授業形態		開講期・曜日・時限
担当教員	佐藤 彰宣			後期 火曜日 5時限
			シラバス・コード	SEM250

学部・学科	演習分野
人間社会学部	佐藤彰宣ゼミナール(趣味のメディア史)

**概要説明**

【概要】  
 本ゼミでは、趣味とメディアの関係を社会学の視点から研究します。音楽や映画、ドラマ、ファッション、スポーツなど、みなさんにはそれぞれ「これなしでは生きていけない」、あるいは「気になって仕方ない」という「趣味」があるはずですが、こうした趣味を楽しむうえで、SNS や動画などメディアの存在がなくてはならないものとなっています。そこで本ゼミでは、趣味とメディアがどう関わっているのか、社会のなかで趣味がどう実践されているのかを考えていきます。特に本ゼミでは過去との対比で現在を考える歴史的視点を重視しながら、趣味とメディアの間わりについて研究します。

これらの作業は、趣味という対象を通して社会学やメディア論(史)への理解を深めることにもつながります。そのために、趣味にまつわる社会学やメディア研究についてもゼミでの文献輪読や議論を通して学んでいきます。その際、各自の「趣味」を取りまく社会的な文脈や時代背景、またメディアが趣味実践(コンテンツの創作・消費、コミュニケーションなど)に及ぼす効果や影響なども歴史的に検討してみます。それぞれの「趣味」の面白さや奥深さを研究対象として掘り下げながら、同時にそこに社会学やメディア論(史)としてのどのような面白さや発見があるのかについても考えていきたいと思います。

【各年の計画】  
 [研究演習Ⅰ]  
 社会学やメディア研究について文献輪読やディスカッションを通して理解を深め、各自の興味関心を研究へと導くための視点を養います。  
 [研究演習Ⅱ]  
 各自の研究構想発表について行い、ゼミでの討議を通して、何をどのように研究するのかというテーマと研究方法を固めていきます。  
 [研究演習Ⅲ および卒業論文Ⅰ]  
 春休み期間までに調査(資料やデータの収集)を開始し、調査内容を整理しながら、論文を書き始めます。同時に進捗状況について定期的に報告します(報告しないと研究は進まない)。ゼミでの討議を参照しながらブラッシュアップしていき、論文の完成を目指します。

**主な卒業論文のタイトル**

- ・なぜコンビニ経営が過酷な環境に置かれているのか、それでも店舗数が安定している要因
- ・なぜ優勝入賞は音楽を演奏したのか：日本社会で忘れられた白衣基金
- ・なぜ父の日・母の日に花を贈るのか：定着した習慣とメディアの影響力の関連性
- ・なぜ日本でiPhoneは選ばれるのか：通信キャリア会社が与えた影響
- ・推し活での暗黙の了解：アイドルグループINIのファン文化

**教員からの要望**

・本ゼミで重視するのは「なぜ」を見つめる視点です。何気ない日常生活のなかにある「なぜ」という問いを見つけ、趣味とメディアとの意外な関係性を考えることの面白さ(社会的想像力)に出会い、過去との対比で現在を眺め解く知的好奇心を養っていくことをこのゼミでは目指します。

・本ゼミの受講生には、みなさん自身が楽しみながらかつ真摯に取り組めるテーマで卒業論文を書いてもらおうと考えています。そのためには、積極的に文献を読む、自ら進んでフィールドや史資料を調査する姿勢を求めます。

**選考方法**

志望理由書と面談によって選考します。その際、特に研究に取り組もうとする意志や姿勢を選考基準として重視します。

評価方法
授業での報告、議論への参加態度、レポート提出などを総合的に評価します。

**到達目標・成果物**

- 研究演習Ⅰ：文献輪読資料および研究構想資料
- 研究演習Ⅱ：文献輪読資料および研究構想レポート(卒業論文序論部に相当)
- 研究演習Ⅲ：卒業論文要約版レポート
- 卒業論文：卒業論文の完成稿

教員英字氏名	研究室
Sato Akinobu	研究棟V 5424教室

最終学歴  
 立命館大学大学院社会学研究科博士後期課程修了

学位  
 博士(社会学)

主な研究活動・社会活動・研究業績

メディアを通じた趣味のつながりについて研究しています。具体的には、人々が社会のなかで自分の趣味をどのように共有し、そのときメディアがどのような役割を果たしているのかを研究テーマとしています。詳細は教員プロフィール(以下)を参照してください。  
[https://www.umds.ac.jp/academics/profile/index\\_sa/sato/](https://www.umds.ac.jp/academics/profile/index_sa/sato/)

趣味・特技

さまざまな「趣味」について語り合ったり、情報交換すること。  
 新しいメディアに触れること。  
 街歩き、温泉に浸ること。

所属

人間社会学部心理社会学科

- 所属学会
- 日本社会学会
  - 日本メディア学会
  - 日本スポーツ社会学会
  - メディア史研究会

専門分野

文化社会学・メディア史

担当科目

- 専門基礎演習
- コミュニケーション論
- サービス社会論
- 情報社会学
- 社会学基礎
- 基礎能力(新聞を読む)

備考

担当者が短勤務のため、ゼミ生の履修状況に配慮し相談のうえで時間帯を調整して実施します。

実務経験の有無及び活用

なし